



Level 4-5

2014年度
第 **3** 回



けんてい
検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。

まず、下記の注意をよく読んでください。

けんていじょう
□ 検定上の注意 □

1. けんてい
検定時間は 60 分です。
2. けんていかいしまえ
検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. けんてい
検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて
かんとくしゃ
監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒いっしょに回収します。

じゅけんばんごう
受検番号

氏名

《問題Ⅰ》 次の問いに答えなさい。

第一問 次のア～カの中から、主語と述語じゆつごの関係がふくまれていないものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今朝、赤い花が咲いた。
 イ 明日は勉強しなければならぬ。
 ウ 君は何才だ。
 エ 誰か私を早く助けて。
 オ 木枯らしが歩道の落ち葉を舞い上げる。
 カ 忘れ物をして大変だ。

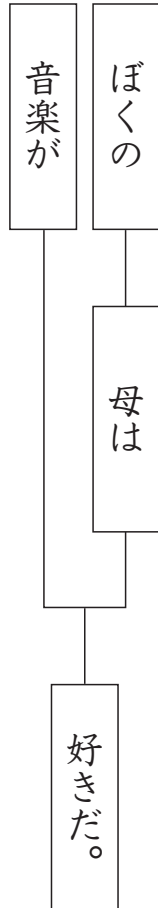
第二問 例のように、問題文を図に当てはめたとき、

(2)

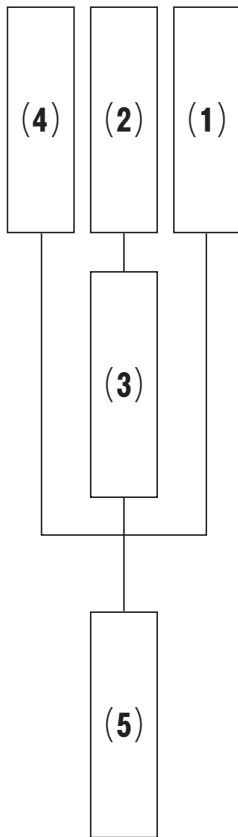
に当てはまる言葉をア～オから選び、記

号で答えなさい。

〔例〕 ぼくの 母は 音楽が 好きだ。



〔問題〕 ア わたしは 毎日 ウ お皿 エ あらいを オ 手伝っている。



第三問 次の（ ）にもっとも当てはまるものを、後のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えな

さい。

(1) () 君の方が、ぼくより絵が上手だ。

ア まさか イ まるで ウ やがて エ むしろ

(2) 悲しい話だった（ ）泣かなかった。

ア から イ より ウ けど エ なら

(3) 君はいつも得して（ ）いる。

ア すら イ さえ ウ のみ エ ばかり

第四問 次の文章の（1）（2）に当てはまる接続語を、後のア～オの中から選び、記号で答えな

さい。

私^{わたし}たちは人と話をするとき、言葉を使います。その際^{さい}、自分の言いたいことが相手に伝わるように、言葉を正確^{せいかく}に使わなければなりません。（1）（2）は簡単なことではなく、むしろとても難^{むずか}しいことなのです。（2）（3）、言葉を正確に使えるように、日頃^{ひごろ}から意識して訓練する必要があります。

ア つまり イ しかし ウ なぜなら エ たとえば オ だから

第五問 —— 線部が指しているものを、三字以内でぬき出しなさい。

才能とは、選ばれた人が生まれつき持っているものでしょうか。そんなことはないと思います。すべての人がそれぞれ何らかの才能を持って、この世に生まれてきたはずなのです。ただ自分の才能に気がつかなかったり、才能を育てる努力が足りないために、自分にはそれがないと思います。こんでいるだけなのです。

《問題Ⅱ》 次の文章は宮沢賢治の「おきなぐさ」という作品の一部です。この文章を読んで、後の問いに答

えなさい。

春の二つのうずのしゅげの花はすっかりふさふさした銀毛の房にかわっていました。野原のポプラのすずいろの葉をちらちらひるがえし、ふもとの草が青い黄金のかがやきをあげますと、その二つのうずのしゅげの銀毛の房はふるふるふるえて今にも飛び立ちそうでした。
そしてひばりがひくく丘の上を飛んでやって来たのでした。

「今日は。いいお天気です。どうです。もう飛ぶばかりでしょう」

「ええ、もう僕たち遠いところへ行きますよ。(1)」

「どうです。飛んで行くのはいやですか」

「なんともありません。(2)」

「こわかありませんか」

「いいえ、飛んだってどこへ行ったって野原はお日さんのひかりでいっぱいですよ。僕たちばらばらになら

うたって、どこかのたまり水の上に落ちようたって、(3)」

「そうです、そうです。なんにもこわいことはありません。僕だってもういつまでこの野原にいるかわかりません。もし来年もいるようだったら来年は僕はここへ巣をつくりますよ」

「ええ、ありがとう。ああ、僕まるで息がせいせいする。きっと今度の風だ。ひばりさん、さよなら」

「僕も、ひばりさん、さよなら」

「じゃ、さよなら、お大事においでなさい」

きれいなすきとおった (a) がやってまいりました。まず向こうのポプラをひるがえし、青のオート※②に波をたてそれから丘おかにのぼってきました。

うずのしゅげは光ってまるで踊るおどようにふらふらして叫びました。

「さよなら、ひばりさん、さよなら、みなさん。(4)」

そしてちようど (b) がくだけで散るときのように、からだがばらばらになって一本ずつの銀毛ぎんもうはまっしろに光り、羽虫のように北の方へ飛んで行きました。そしてひばりは鉄砲玉てつぱうだまのように空へとびあがって鋭するといみじかい歌をほんのちよっと歌ったのでした。

私は考えます。なぜひばりはうずのしゅげの銀毛ぎんもうの飛んで行った北の方へ飛ばなかったか、まっすぐに空の方へ飛んだか。

それはたしかに、二つのうずのしゅげのたましいが天の方へ行ったからです。そしてもう追いつけなくなつたときひばりはあのみじかい別れの歌をおくつたのだらうと思います。そんなら天上へ行つた二つの小さなたましいはどうなったか、私はそれは二つの小さな変光星へんこうせいになったと思います。なぜなら変光星へんこうせいはあるときは黒くて天文台からも見えず、あるときはアリの言ったように赤く光って見えるからです。

※①うずのしゅげ…別名、おきなぐさ。全体に白い毛が生えてくる草。

※②オート…オート麦やオートツ麦という麦の一種。

第一問 () (1) () () (4) () に入る言葉を、次のア～エの中から、それぞれ選び、記号で答えなさい。

ア お日さん、ありがとうございます

イ 僕^{ぼく}たちの仕事はもう済^すんだんです

ウ お日さんちゃんを見ていらっしやるんですよ

エ どの風^{ほく}が僕^{ぼく}たちを連れて行くかさつきから見ているんです

第二問 —— 線部と言ったのはだれか、五字以内でぬき出しなさい。

第三問 (a) () (b) () に入る言葉を、次のア～オの中から、それぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 風 イ 砂^{すな} ウ 石 エ 水 オ 星

第四問 次のア～オについて、問題文の内容と合っているものに○、間違っているものに×をつけなさい。

ア ひばりは来年もここに巣を作るだろう。

イ うずのしゅげは体がバラバラになりながらも、風に乗って北の方に飛んで行った。

ウ ひばりはうずのしゅげのたましいに追いつけなくなったとき、別れの歌をおくった。

エ うずのしゅげは最後にひばりに別れの歌を歌った。

オ うずのしゅげは天上で星になった。

《問題Ⅲ》 次の問いに答えなさい。

第一問 次の文章の要点をまとめると、(1) (2) (3) にはどんな言葉が入るか、文中からぬき出しなさい。

みなさんはカブトガニをっていますか。カブトガニはカニという名前がついていますが、クモやサソリに近い動物です。最大の注目すべき点は、二億年の昔から生き続け、その姿がほとんど変わっていないということです。こんな生物はめったにいません。まさしく「生きている化石」であり、学術面からも貴重だということで、佐賀県伊万里市などでは天然記念物に指定されています。

〈要約〉

カブトガニは、(1) も前から生き続けてきた生物で、(2) と言われ、(3) に指定しているところがある。

第二問 次の文を正しい文にするためには、どの言葉をけずるのがよいか、それぞれ一つずつぬき出しなさい。

- (1) 黒の ボールペンで きつと 君の 名前を 記入しなさい。
- (2) たとえ うまくいなくても 次に がんばれば まるで 大丈夫だよ。

第三問 次の言葉をならべかえて文を作るとき、一つだけ使わない言葉があります。その言葉を答えなさい。

葉は しまった 々の からだ 落ちて すっかり 木 。

第四問 次の二つの文を組み合わせて一文にしなさい。

明日は苦手な試験がある。 国語の試験がある。

第五問 A・B・Cの三つの文の順番を変えずに、一文にしなさい。

A 今朝、ぼくはかさを持って家を出た。

B しかし、雨はふらなかつた。

C だから、結局かさは必要なくなつてしまった。

《問題Ⅳ》 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- ① 国連という世界的な組織そしきでは、子どもの権利けんりを守るための条約じょうやくが定められています。その中でも、大きな柱になるのは「生きる」「守られる」「育つ」「参加する」の四つの権利です。
- ② たとえば、日本ではこの権利が必ずしも守られているとは言えません。なぜなら、いじめなどで自殺をする子どもたちがいるからです。これは「生きる」「守られる」という子どもの権利がおかされていることになります。
- ③ 子どもの権利とは簡単かんたんに言う、みんな自分らしく生きていいんだということです。そのためには、自分に自信を持たなければいけません。
- ④ 欧米おうべいの子どもたちに比べて、日本の子どもたちは自分の意見を自信を持って発言することが少ないようです。
- ⑤ 自分が思うとおりに生きることが、「わがまま」と言われるかもしれませんが、「我が」＋「まま」で、これは自分らしく生きることを意味します。その意味では、日本の子どもたちはもつと「わがまま」であってほしいのです。

第一問 日本で時として守られていない子どもの権利を二つぬき出さなさい。

第二問 欧米おうべいの子どもたちと比べくらている文章はどれか。番号で答えなさい。

第三問 問題文中で「ところが」と書くべきところに、まちが間違つて他の言葉が書いてあります。その文章の番号を答えなさい。

第四問 問題文の内容として、もっとも適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本の子どもたちはもっとわがままであるべきだ。
- イ 権利とは自分に自信を持つことだ。
- ウ 日本では子どもたちが自分らしく生きている。
- エ わがままはいけないことである。

第五問 問題文の題名として、もっとも適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自殺
- イ 子どもの権利
- ウ わがまま
- エ 自分らしく生きる

《問題V》

好きな食べ物を先に食べるか、後に食べるか。次の文章を読んで、先に食べる理由を二つ、後に食べる理由を二つ、それぞれ十五字以上二十字以内で答えなさい。

A君 大好きなおやつを後から食べようと、楽しみにとっておいたら、二才年下の弟に何度もとられてしまいました。

B子 小学校の給食で、苦手なグリーンピースを最初に食べて、後に好きなハンバーグを食べました。グリーンピースを食べたことも忘れて^{わす}幸せな気分になりました。

C子 この前、レストランで、大好きなグラタンを後から食べようと、嫌いなものから順番に食べていきました。すると、おなががいっぱいになって、大好きなグラタンでさえ、おいしいとは思いませんでした。

D君 ぼくは、苦手なものから食べて、最後に好きなものを食べ、ああ、おいしかったと言って終わりたいな。